

BS バイオスティミュラント



lidavital[®]



リダバイタル

光・温度などの
ストレス軽減に効果的!



甜菜(テンサイ)糖蜜

ベタイン

植物性アミノ酸

グルタミン酸(20,000ppm)とその他18種類のアミノ酸含有

日本バイオスティミュラント協議会自主基準に基づく表記

BS製品の分類	動植物抽出物、タンパク質加水分解物
BSの主たる効果・効能	収量改善、環境ストレス耐性(耐暑性・耐寒性・低照度下での生育・塩害耐性)を高める、有用成分(栄養成分・機能性成分)の改善、成り疲れ改善



使用原料

甜菜糖蜜



糖精製時の副産物を使用。

植物由来のアミノ酸含有

種類	製品中の濃度(ppm)	種類	製品中の濃度(ppm)
グルタミン酸	22,230	ヒスチジン	130
アラニン	4,160	イソロイシン	78
アスパラギン酸	2,080	セリン	52
チロシン	910	メチオニン	26
バリン	650	フロリン	26
トレオニン	520	フェニルアラニン	26
グリシン	312	トリプトファン	26
リジン	260	ヒドロキシプロリン	26
ロイシン	130	α-アミノ酪酸	26
グルタミン	130	遊離アミノ酸合計	31,800

アミノ酸の中でもグルタミン酸を多く含みます(表中の値は分析例であり、濃度を保証するものではありません)。

肥料成分

- 登録番号 輸第104922号
- 肥料の種類 液状肥料
- 保証成分(%)

窒素全量(TN)	7.5	水溶性マンガン(WMn)	0.15
水溶性りん酸(WP)	5.0	水溶性ほう素(WB)	0.50
水溶性加里(WK)	4.5		
- 配合成分(%)

硫酸亜鉛(Znとして)	0.25	モリブデン酸アンモニウム(Moとして)	0.05
-------------	------	---------------------	------

使用方法

作物名	散布時期	目的と効果	希釈倍数(倍)	使用方法
果菜類	育苗時	環境ストレス耐性の向上により生育促進	1000~2000	葉面散布
	定植~収穫期	光・温度ストレス耐性の向上、収量増加、成り疲れ軽減	500~1000	
葉菜類	育苗時	環境ストレス耐性の向上により生育促進	1000~2000	
	定植~収穫期	光・温度ストレス耐性の向上、収量増加	500~1000	
根菜類	生育初期 肥大期~収穫期	光・温度ストレス耐性の向上、収量増加	500~1000	
豆類	生育期			
果樹類	開花前 果実肥大期~収穫前 収穫後	光・温度ストレス耐性の向上、収量増加、樹勢向上、樹勢回復		
茶	萌芽期 ~生育期	収量増加、品質向上 環境ストレス耐性の向上		



リダバイタルに含まれる「ベタイン」と「アミノ酸」とは

ベタイン

甜菜(テンサイ)などに含まれる天然物質で、一般的に細胞内の浸透圧の調節、活性酸素除去系の活性化およびタンパク質保護機能を有し、光・温度ストレスを軽減する効果が知られています。

アミノ酸

植物性タンパク質加水分解物(オオムギ・エンバク・アマランサスを使用)が主成分です。アミノ酸は作物の生育を促すことが知られています。

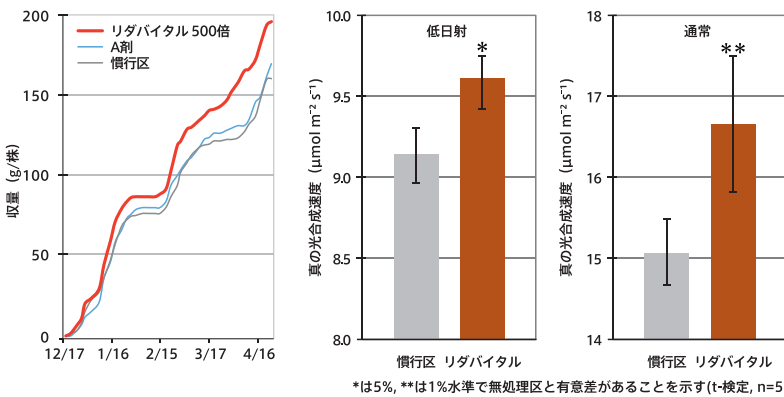
効果・効能(光・温度ストレス軽減)



※模式図

試験事例

いちご: 低日射環境試験

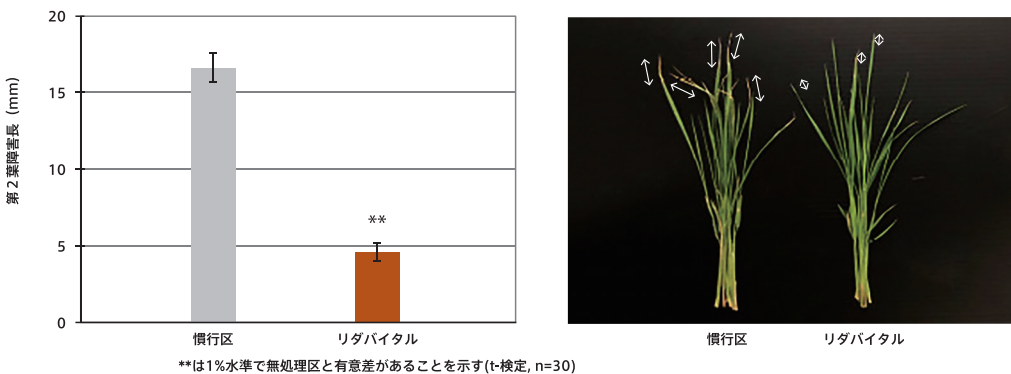


- 品 種: さちのか
- 期 間: 2018年12月21日~2019年4月26日
- 処 理: 500倍希釈液を2週間に1回合計6回葉面散布した(30ml/株)。慣行区は、同量の水を散布した。
- 光条件: 低日射区は寒冷紗(遮光率75%)で常時遮光した。
- 調 査: 収量および光合成速度を測定した。(条件: CO_2 400ppm, 光強度 200[低日射], 2000[通常] $\mu\text{mol m}^{-2} \text{s}^{-1}$ 。)

低日射環境のため収量は通常環境の半分程度となったが、慣行区や対照剤と比べて増収(+22%)、低日射に起因する減収を低減できた。光合成速度は無処理に比べて有意に高かった。

試験地: OATアグリオ樹栽培研究センター(2019年)

水稲苗: 低温ストレス試験



- 品 種: コシヒカリ
- 処 理: 移植前日に500倍希釈液を育苗箱当たり500ml散布した。
- 環境条件: 移植後3日間暗黒下で地上部気温7.5℃、地温26℃に制御して栽培した。通常環境に戻し、4日間静置後、障害を調査した。光源は白色蛍光灯を使用した。

葉の端部の障害が有意に減少し、低温障害が軽減した。

※写真中の矢印は障害長を示す。

試験地: OATアグリオ樹栽培研究センター(2019年)

△ 使用上・保管上の注意

1. アルカリ性資材とは混用しないでください。
2. 肥料以外の用途には使用しないでください。
3. 幼児等の手の届かない場所に保管してください。
4. 使用後は洗眼やうがいをし、皮ふに付着した場合は洗い流してください。
5. 眼に入った場合は、直ちに多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診断を受けてください。
6. 誤って飲み込んだ場合は、できるだけ早く医師の診断を受けてください。
7. 静置すると有機成分由来の沈殿が発生することがありますので、よく振って内容物を均一にしてからご使用ください。
8. 他の肥料との混用は、沈殿や結晶が発生しない場合のみご使用ください。
9. 希釈液は腐敗しやすいため、その日のうちに使いきってください。
10. 高温時における日中の使用はさけてください。
11. 氷点下になると結晶が発生したり、高温になる場所(温室など)では沈殿が発生するおそれがありますので、直射日光をさけ、密栓し、室内の冷暗所で保管してください。

取り扱い